

## 『5月の庭』

桑原 紀子

玄関脇のウグイスカグラの木に、小さな提灯をぶら下げたような赤い実が鈴なりです。植えた覚えがないのに、鳥が運んだ実生なのか、もう20年以上も、玄関と物置の間で、ぐんぐん背を伸ばして2m以上になりました。子どもや孫が小さい頃は、喜んで食べたのに、今はもう誰も採らないので、赤い実は成り放題です。口に入れると、ほんのり甘い汁の中に、小さな種が数個入っていて、種はペッと吐き出します。

5月のある朝、玄関ドアを開けると、バサバサとなにかが飛び立ちました。一瞬だったのですが、大きさと灰色が目に残ったので、ヒヨドリと、思いました。物置の蔭なのに、よく見つけたものです。それからは、ドアを開けた途端、ヒヨドリと遭遇する回数が増えました。

2羽で離れた木に止まって、私がいなくなるのを待っていることもあります。あちこちに種まじりの糞をする



ので、ウグイスカグラが増えていくでしょう。

去年の5月は、ガビチョウにヤママユの幼虫を盗られた事件がありました。クヌギの枝に幼虫を付けて、外で日光浴をさせていたら、ちょっと離れた隙に、ガビチョウが緑色の幼虫をくわえて飛び去ったのです。人をも恐れぬ素早さ、ややあって、満足した高らかな囁りが聞こえた時は、怒りと可笑しさで、複雑でした。ガビチョウにレストランを提供したようなものです。

5月の庭には、小さなカタツムリや蜘蛛、蝶、越冬したヤモリなどが姿を現します。新しく生まれるもの、命を続けるもの、柔らかい新緑に守られて、生き物たちの世界が広がります。

無数の命が奪われた東北の震災の悲しみを抱えたまま、季節はゆっくりと巡っていきます。